

共に生きる地域づくり

研究員 神吉宇一、友田奈津美
上野まき子、広瀬新朗



本研究では江東区深川地域を中心に開催された障がい者アートの市民芸術祭，アートパラ深川 (<https://artpara-fukagawa.tokyo/>) の企画の一部として，四つの取り組みを実施しました。アートパラ深川は，実施の理念として「共に生きる社会の実現」を掲げています。本研究では，芸術祭そのものよりも，芸術祭をきっかけとして地域の連携や協働を生み出し，その延長線上に共に生きる社会を実現するための萌芽的取り組みを行いました。一つ目は，障がい当事者と深川地域の店舗の連携です。障がい者の就労支援施設等ではさまざまな制作物の作成や作業を行なっています。しかし，そのことがほとんど地域社会の人たちに知られていません。そこで協力店舗を募り，芸術祭の会期中に就労支援施設等の取り組み紹介や制作物を店舗に展示してもらいました。今後は，どのように販売につなげていくかが課題です。二つ目は，芸術祭の全国公募展の入賞者向けに，来場者がメッセージを送れる「メッセージカード」の仕組みづくりです。江東区の印刷会社に協力してもらい，アーティストの作品をポストカード風

にしてメッセージを記入できるようにし，いいねシールも作成しました。メッセージが記入されたカードは，会期後にすべてアーティストに郵送しました。アーティストの中には，外出が難しい方もいましたが，この取り組みを通して来場者とのつながりができたことをとても喜んでくれる方が多かったです。三つ目は，江東区内の墨東特別支援学校，城東特別支援学校との連携の取り組みです。子どもたちが芸術祭への参加を通して社会との接点を持てるようにするために，芸術祭のアイコンである絵馬神輿に飾る絵馬やハートのオブジェの製作をして会期中に展示しました。また，校外学習として芸術祭見学をしました。校外学習の企画と引率は本学学生が行いました。四つ目は，オンラインアート鑑賞ワークショップです。本学の学生がファシリテータートレーニングを受けた上で，芸術祭に来場できない人たち，特に海外在住者にも取り組みを知ってもらうために実施しました。米，豪，NZ，韓，英，タイ，スイス，スロベニア等多くの国から計26名の参加がありました。本研究の最大の成果は，これらの取り組みを通して構築された地域の人的ネットワークです。次は，このネットワークを活用して，共に生きる社会の実現に向け，さらなる取り組みを進めていきたいと考えています。